



ISSN 0385-0838

第 135号

発行所

亜細亜大学アジア研究所  
東京都武蔵野市境5-24-10

電話 0422 (54) 3111

郵便番号 180-8629

# 長期滞在先としてのマレーシア

三木敏夫

## 1、人気No1のマレーシア

豊かになった日本、定年退職後、温暖なところで長期滞在して「第二の人生」を楽しむ人たちが増えている。自然の中の畑仕事、絵画・音楽などの芸術活動、ゴルフや社会的なボランティア活動など、海外での長期滞在はサラリーマン時代の縦社会から解放された「第二の人生」を過ごす魅力的な生き方である。

二〇〇七年に六〇歳以上の人で、二週間以上外国で滞を楽しんだ日本人は一六万人（ロングステイ財団）に達した。長期滞在者は五年前と比較して三四%も増加している。現在、団塊の世代が定年退職を迎える時期に入っており、ここしばらく海外で長期滞在を楽しむ日本人が

増加することは間違いない。

この長期滞在先として人気が高い国はマレーシア、オーストラリア、タイ、米国ハワイ、ニュージーランド、カナダ、フィリピンやインドネシアなどがある。とりわけASEAN諸国に人気が集まっている。これらの諸国の中で長期滞在先として人気No.1がマレーシアである。

一人当たりGDPが七、〇〇〇ドル近く達したマレーシアは生活費を比較すればオーストラリアやハワイなどと比べて割安であるが、タイ、フィリピンやインドネシアなどと比較して割高である。老後の年金収入だけでは十分に生活を楽しむことができないように感じるが、日本人中高年の間で長期滞在先としてマレーシアが人気を集めている。

## 目次

長期滞在先としてのマレーシア	三木敏夫	(1)
東ASEAN成長地帯の課題	野沢勝美	(4)
台湾給与所得者の税金（直接税）	岡崎幸司	(6)
「国際中堅企業」(22)	西澤正樹	(8)
金融危機の世界への波及と影響を 最新データで分析	石川幸一	(10)
書評 ロー・ダニエル「竹島密約」	野副伸一	(11)
『アジアの窓』 中国「双無」の農村大学生	小林照直	(12)

## 2、適度な先進性と適度な後進性

なぜマレーシアが長期滞在先として人気があるのか。かつて筆者がマレーシアに駐在した経験から、第一の理由として「適度な先進性と適度な後進性」を挙げることができる。「瘴癘の地」と言われたマレーシアに家族と一緒に滞在して感じたことは、適度に日本での生活水準が楽しめる先進性と、ゆったりとした時間が流れる適度な後進性が心地よく感じられた国であった。

一九八〇年代末、マレーシアは外資主導型輸出志向工業化により錫とゴムに代表される一次産品輸出から電子立国として工業国の仲間入りを果たし、ASEANの先進国に経済発展し、主役としてタイとともに「東アジアの奇跡」を演じた。駐在以来たびたび同国を訪問す

る機会を得、特に過去一〇年間マレーシアを拠点にASEAN諸国を毎年研究訪問するたびに「適度な先進性と適度な後進性」は健在であることを感じさせる。この心地良さは温厚なマレー人の「人の良さ」(拙著『ASEAN先進経済論序説』参照)からくるマレー文化が創り出していることである。プアサ(断食)明けのハリヤ(マレー人正月)には、マレー人家庭ではオープンハウスとして自宅を開放するところが多い。オープンハウスでも受け入れるマレー文化の開放性が、日本人の間で長期滞在先としてマレーシア人気となっていると言えよう。周知の通り、マレーシアではマレー人と中国人との経済格差を解消するためにプミブトラ政策を実施している典型的な開発独裁国家である一方、英国植民地時代に根付いた民主主義とムシユアラ(集会)、ムカファット(合意)とゴトンヨロン(相互扶助)に代表されるマレー文化が溶け込み、「適度な先進性と適度な後進性」を作り出している。

### 3、多様性の魅力

第二の理由としてマレーシアの持つ多様性を指摘することができる。典型的な多民族国家であるマレーシアは、東アジア地域が共有する多様性を兼ね備えている。この多様性は熱帯地方の単調な生活に刺激と変化を与えるものであり、長期滞在先としての魅力を高めている。

多様性とは多民族、多文化、多宗教、多言語と多食文化の五つの文化を意味している。英国植民地支配の結果、マレー人社会に労働力として中国人とインド人が入り込み、それぞれが独

自のコミュニティを形成し、オランダスリー、ダヤック族やカダサン族などの少数先住民族と共生する多民族国家となった。一九世紀にゴムと錫プランテーション労働のためにマレーの地に連れてこられた中国人とインド人の多くはマレーシアに定住し、今日の多民族国家を形成することにいった。中国人社会とインド人社会は本国以上に自らの伝統と文化を温存し、自分達の存在感をマレー人社会の中で印象付けている。これに対してマレー人達も自分達のマレー文化を主張し、マレー文化、中国文化とインド文化が共生する多様性に富んだ社会を形成することになった。

この結果、例えばハリヤ、中国人正月(春節)、インド人正月(灯明祭)とインターナショナル正月(一月一日)の四つの正月が盛大に祝われている。

また、多宗教も長期滞在先としてのマレーシアの魅力を高めている。同国にはイスラム、キリスト教、ヒンズー教に加えて少数先住民族社会では素朴なアニミズム(精霊宗教)が息づいている。中東地域では今でもイスラムとキリスト教は対立と武力衝突を繰り返しているが、マレーシアではマレー人イスラム、中国人仏教・道教・キリスト教、インド人ヒンズー教と仲良く、平和的に棲み分けている。早朝、礼拝を告げるためモスクから聞こえるアザーンを聞くたびに、異国情緒を味わうことができる。ともにマレーシアがイスラムの国であることを認識する。各民族間のこうした精神的活動の棲み分けが、マレーシアに「適度な先進性と適度な後進性」をもたらしていることは間違いない。

加えて国語としてのマレー語の外に中国語、タミール語や英語が何の規制を受けることもなく自然と日常生活で使われる。英語を含め外国語の苦手な日本人を受け入れる社会的雰囲気醸し出している。さらに各民族の食文化も豊かに花開いている。日本料理もマレーシア社会では人気の料理となり、経済的豊かさとともに手軽に楽しめる食文化として定着している。

### 4、安定した政情と対日感情の良さ

この外、マレーシア式民主主義の定着により、政情が安定し、治安が良いことが指摘できる。外国でありながら過度に緊張することなく、安心して外国での生活を楽しむことができる。とは言えや不愉快なことに遭遇することもある。十分気を付けることは言うまでもない。

また、物価水準が比較的安いことも人気の秘密である。物価水準は日本の三分の一程度と考えてよい。年金生活者の収入で十分にマレーシア生活を満喫できるのも魅力となっている。しかし落とし穴もある。ASEANの先進国に経済発展したマレーシアの都市部、クアラルンプールなどにおいては生活費も増加する傾向にある。ローカル水準の生活であればゴルフも満喫できるが、日本並みの生活水準を望むのであれば年金だけでは賄いきれないことも確かである。因みにローカル水準で一月当たりの生活費は、マレーシア一、〇〇〇リンギ、タイ一、〇〇〇バーツ程度である(筆者の現地感覚と聞き取り)。

加えて、対日感情が良好なことも長期滞在先

としての人気を高める要因となっている。マハティール元首相が一九八〇年代初めに開始したルックイースト（東方）政策の狙いは、戦後急速な経済発展を遂げた日本や韓国の労働慣行や倫理観を本とすることにあり、マレーシアから多数のマレー人を中心とする留学生が日本に派遣され、対日理解が進んでいる。

シンガポールと同様に日本の経済発展を見習い、また日本からの経済援助をばねにマレーシアがASEANの先進国になったことは確かなことである。特に一九八〇年代半から始まった日本企業のマレーシア進出ラッシュは、同国を中進国に押し上げた「日本効果」と言われるほど大きな経済効果を生んだ。このためマレーシア国民の大半は日本人に対する友好的感情を抱いており、他の東アジア諸国では経験できない「適度な先進性と適度な後進性」が生活のし易さとなり、長期滞在先としてマレーシアが人気を博している要因となっている。

日本人長期滞在者（セカンドホーム）にとって人気のある地域は、マレー半島の中央部に位置し、「マレーシアの軽井沢」と言われ、植民地時代から避暑地であったキャメロンハイランドである。シルク王として有名なジムトンプソンが失踪した土地として知られている。高原に位置し、熱帯にもかかわらず年間気温が二五度前後でありエアコンなしで過ごせ、ゴルフ三昧を楽しむセカンドホームが増えている。また「東洋の真珠」と言われるペナンも人気が高い。さらに東マレーシア・サラワク州のクチンやサバ州のコタキナバルも根強い人気を持っている。

## 5、MM2Hを開始

マレーシア政府が海外からの移住者や長期滞在者の誘致に熱心であることも長期滞在先としての人気を高める要因となっている。マレーシア政府は外資導入策の一環として位置付けている。

二〇〇二年に開始したマレーシア・マイ・セカンド・ホーム・プログラム（MM2H）で長期滞在ビザ発給の規制緩和を実施したことにより、長期滞在が容易になった。先発ASEAN諸国では入国時に原則最長九〇日間の滞在ビザが発給されることになっていて、マレーシアではMM2Hの条件を満たせば最長一〇年間の長期滞在ビザが発給される。この長さはタイと比較して最長となっている。加えて一定条件を満たせばさらに延長することも可能であり、マレーシアでの長期滞在を楽しむことができ、煩わしいビザ問題がなくなっている。

また、MM2Hビザを取得すると自動車にかかる輸入関税や物品税などが免除されるなどの優遇措置を受けることができる。

MM2Hを入手する条件は一定額の所得額の外にマレーシアでの医療保険加入、現地で受診した健康証明書などの条件を満たせばMM2Hビザを入手することができる。気を付けなければいけないこととして、同ビザでは収入をとまなう仕事に就くことができないことである。（最近一部緩和された）。

## 6、周到的な準備で長期滞在を

現在マレーシアに進出している日系企業は約一三〇〇社（ジェトロ）、在留邦人数は一万人以上にのぼり、日本にとってマレーシアは企業

進出先として観光先として身近な国の一つになっており、日本人にとって長期滞在先として居心地の良い国となっている。とは言え長期滞在にはトラブルが多いことも確かである。とりわけトラブルの多いのが不動産問題である。一般的に外国人がその国の不動産を所有することは原則禁止されている。リースが圧倒的に多い。現地の人の名義を借りて土地付きの一戸建てを購入する便宜的な方法があるが、名義人に購入した不動産に居座られるケースもでてくる。このような被害にあい、バラ色の「第二の人生」を一転して暗いものにならないために長期滞在を計画するときには周到的な調査と準備をする必要がある。また風系の切れた風にならないためにも日本にいつでも帰れる場所を残すことが肝要である。

マレーシアでは一定の条件を満たせば外国人が不動産を購入することができるが、余計なトラブルに巻き込まれることを避けるためにも、長期滞りの一歩はまず借家ではなく過剰し、信頼できる不動産業者を選んで着地する自衛策を講じることが大切である。

ASEANの先進国に発展したマレーシア、「適度な先進性と適度な後進性」が徐々になくなりつつあることは確かである。マレーシアで長期滞りを楽しみ、思わぬ事故やトラブルにあわないためにも、多様性に富んだ現地コミュニティ社会の研究と配慮そして日本人としての矜持を持って生活する気構えが望まれる。

（みきとしお・アジア研究所客員研究員／札幌学院大学教授）